

動画解説まとめ 04 / AI活用

AIで動画編集と反復作業を進める役割分担

動画編集の比較実験から、構成を考えるAIと画面を操作するAIの分担を整理。画面録画を作業指示へ変える手順、既存コンテンツの見直し、完成後の確認まで解説します。

この動画の要点

ChatGPTとClaudeを組み合わせ、複数の編集ソフトで動画を作った検証のまとめです。動画では、構成・文字起こし・編集指示を考える役割と、ソフトを操作する役割を分けています。実際に試すと確認待ちで止まる場面や字幕の重複があり、最終確認と修正も必要でした。画面録画から指示を作る4段階、過去動画の商品タグ付け、Canva関連の受託案を整理し、動画内のモデル評価・料金説明は最新仕様と区別します。

01 考える工程、ソフトを操作する工程、完成後に確認する工程を分ける。

02 自分の作業を画面録画し、手順を分解した指示文に変えてから操作AIへ渡す。

03 新しい副業だけでなく、過去の記事・動画・商品などに残った反復作業を洗い出す。

04 画面操作とコードによる制作を比べ、品質・時間・費用・確認の負担で使い分ける。

資料の使い方

動画の要点を読み返し、紹介した手順を実践するときにお使いください。本文の時刻を押すと、元動画の該当箇所を開けます。

元動画：ChatGPT 6 Astraで動画編集

<https://www.youtube.com/watch?v=TDAsX5J7934>

構成を考える役割と、編集ソフトを動かす役割

動画の該当箇所 7:15 / タップして開く

あべさんは、動画の文字起こし、カットする場所、テロップを入れる場所、編集指示をClaude側で考え、その指示をChatGPT側へ渡して編集ソフトを操作させたと説明しています。動画内で挙げるモデル名はGPT-6とClaude Fable 5.1ですが、ここで学べるのは特定モデルの順位を固定することより、工程ごとの役割を分ける発想です。

本人は、最初からChatGPTに説明台本を作らせる方法も試したと話します。内容の正誤とは別に、授業のようで面白さが足りず、YouTubeで見続けてもらうには弱いと感じたため、構成はClaudeへ戻したという判断です。画面を操作する能力と、視聴者向けの話の組み立ては別に評価しています。

編集で扱う目的を先に決め、その実行指示を作り、指示に沿って操作する順番です。動画の終盤ではさらに、操作後に別のAIで確認・微調整する工程が追加されています。最初の計画通りに一度動けば完成という検証結果ではありません。

- ・ 計画：何を伝え、どこを削り、何を強調するかを決める。
- ・ 実行：指示に沿って編集ソフトやサイトを操作する。
- ・ 確認：出来上がりを見て重複・配置・意図とのずれを修正する。

編集ソフトによる制作と、コードによる制作を比較する

動画の該当箇所 2:55 / タップして開く

動画ではCanva、CapCut、Final Cut Pro、iMovie、Adobe Premiere Proを場面ごとに使う実験が説明されます。これに対して、前回の動画や今回の雑談部分では、編集ソフトを開かずプログラムで動画を組み立てる方法を使ったと話しています。

コードによる編集では、キャラクターの切り抜きや透明部分、字幕の読みやすさに問題が出たという前回の振り返りがあります。一方、Canvaを操作させて作った説明映像は、キャラクターの見切れなどが少なく見やすかったという本人の評価です。ただし、本資料は字幕による要約であり、各ソフトの映像品質を独自に採点したものではありません。

最終的な本人の感想は、話している動画の編集はコードが楽で、キャラクターを使った説明映像はCanvaの方がよかった、という使い分けです。すべての工程を同じソフトやAIへままとめるより、成果物の種類に合わせて方法を比べています。

- ・ 画面操作：普段使う編集ソフトの機能を使って制作する。
- ・ コード編集：プログラムで動画を組み立て、編集ソフトの操作を省く。
- ・ 比較する点は見栄えだけでなく、待ち時間、修正、利用料、確認の手間も含む。

過去のコンテンツに残った作業を見つける

動画の該当箇所 19:30 / タップして開く

あべさん自身が試した事例は、過去のYouTube動画へ自著の商品タグを付ける作業です。もともとタグが付いていた動画は13本だったと説明し、長尺とショートを合わせて約700本へタグ付けを進めたと話しています。いずれも本人が動画内で報告した作業例で、この資料が管理画面を確認した数値ではありません。

この例で伝えているのは、効果がありそうだとわかっていても、単純で量が多いために後回しにしていた作業へAIを使うという考え方です。ブログの記事内リンク、商品説明文の見直し、過去コンテンツの更新なども例として挙げられます。タグを付ければ必ず報酬が発生するわけではなく、作業の完了と購入・売上は別です。

新しく副業を始める前に、以前書いた記事、撮った動画、出品した商品などを振り返り、途中で止まった作業を整理する案も提示されています。何を直せばよいかをAIと相談する段階と、実際に修正させる段階を分けると、今回の役割分担につながります。

- ・ 対象：以前作った記事・動画・商品。
- ・ 作業：リンクや説明文など、量が多く後回しになっている部分。
- ・ 判断：何を变えるとよくなるかを考えてから、反復作業を実行させる。

画面録画を、そのまま渡せる作業指示へ変える4段階

動画の該当箇所 25:09 / タップして開く

いきなり『この作業をやって』と頼んでも、普段無意識にしている操作や判断は言葉にしきれないため、意図が伝わらないことがあると説明されています。そこで、普段自分がしている作業そのものを記録する方法が紹介されます。

第1段階は、パソコンで作業している画面を録画することです。動画内では、操作しながら解説を話す必要はなく、普通に作業しているところを映せばよいと説明しています。第2段階は、その録画を構成・手順整理を担当するAIへ読み込ませることです。

第3段階は、録画の作業を操作AIにやらせたいと伝え、手順を分解して、実行側へそのまま貼れる指示文を作らせることです。第4段階は、出てきた指示を実行側の作業モードへ貼って動かすことです。これは動画で示された手順の要約であり、画面に映るプロンプト全文を復元したものではありません。

長い録画は利用量が増えるという注意もあり、代わりに一工程ずつスクリーンショットを撮って画像で渡す案が出ています。本人は有料プランの組み合わせにも触れていますが、具体的な利用量・料金・モデルの提供範囲は動画時点の説明として扱う必要があります。

- ・ 1. 自分の通常の作業を画面録画する。
- ・ 2. 録画を手順整理の担当AIへ渡す。
- ・ 3. 操作を分解し、実行側へ渡す指示文を作ってもらう。
- ・ 4. 指示文を作業モードへ貼り、実行させる。

副業案は、Canva関連の受託と既存資産の改善

動画の該当箇所 29:28 / タップして開く

具体的な副業案の一つは、Canvaを使うスライド・ポスター・チラシなどの制作です。動画ではクラウドワークスやランサーズの募集を例に、発注側が作業マニュアルを用意している場合は、その内容をAIに読ませて制作へ使う方法を挙げています。

ただし、AI使用が禁止されている依頼で隠れて使うことはNGだと、動画内でも明言されています。『AIが作れる』ことだけで案件の条件を満たしたことにはならず、依頼内容に沿う制作が前提です。紹介された案について、成約や納品の実績をこの動画内で検証しているわけではありません。

あべさんは、AIで自分でも作れるようになって、人に任せたい需要は残るだろうと述べています。料理ができて外食や宅配を利用するという比較です。一方、できる人が増えれば単価は下がり得るという見通しも話しています。これは本人の市場観であり、将来の単価の確定情報ではありません。

もう一つは、新しい案件を探すだけでなく、以前取り組んだ副業のコンテンツを改善する方法です。手持ちのものを見直すことで新規制作より早く結果に近づく場合がある、という本人の提案で、成果や所要期間は保証されていません。

- ・ 募集内容とマニュアルを確認する。
- ・ AI使用の可否を含め、依頼条件に沿って制作する。
- ・ 手持ちのコンテンツがある場合は、改善できる部分も並行して探す。

実際には確認待ちと編集ミスがあり、仕上げが必要だった

動画の該当箇所 49:00 / タップして開く

検証後の感想では、複数の編集ソフトを切り替えるため時間がかかり、使用許可の確認が出ると承認するまで作業が止まったと話しています。夜に任せれば翌朝必ず終わっている、という実験結果ではありません。本人は、使うソフトが決まれば負担は減らせそうだが、公開まで1日という準備時間は短かったと振り返ります。

編集ミスの具体例は字幕の重複です。通常の子幕に『10万部』と出ているのに、装飾付きの同じ文字も追加され、画面に二重に残ることがあったと説明しています。最終的な仕上げはClaudeへ戻し、確認と微調整をさせたそうです。

ここから、普段使うソフトをそのまま操作させる方法、別のソフトを使う方法、ソフトを使わずコードで処理する方法を、実際の仕事で比べるのが勧められています。速さだけでなく品質と費用を見て、自分の作業に合う方法を選ぶのが動画の最終的な提案です。

- ・ 自動実行でも、途中の確認で止まることがある。
- ・ 完成後は字幕・装飾・意図とのずれを確認する。
- ・ 計画→実行→確認・修正までを一連の工程として扱う。

実践の進め方

01 後回しにしている反復作業を選ぶ

過去の記事・動画・商品などから、件数が多くて手を付けられていない修正を一つ選びます。動画では既存動画の商品タグ付けが実施例です。

動画 19:30

02 作業を録画または画像で記録する

普段の操作を画面録画します。動画が長くなる場合は、一工程ごとのスクリーンショットで渡す案も紹介されています。

動画 25:09

03 作業を分解した指示文を作る

記録を構成担当のAIに渡し、操作AIで再現したいことを伝え、実行側へ貼れる手順と指示を作ってもらいます。

動画 25:09

04 実行後に別の視点で確認・修正する

作業モードで実行した後、出来上がりを確認します。動画では字幕の重複などを見つけ、構成側のAIへ戻して仕上げています。

動画 52:07

AIへの相談例

編集部が作成した活用例です。動画内の発言をそのまま書き起こしたものではありません。

【編集部による活用例。動画内の逐語プロンプトではありません】この資料を根拠に、記載外の補足は区別し、私の状況を質問してから進める。私が後回しにしているパソコン作業、使うソフト、成果物の条件、提供できる操作記録を確認してください。回答後、計画・実行・確認に作業を分け、操作AIへ渡す指示案を作ってください。動画にない現在の料金・機能は推測で確定しないでください。既存データの変更や公開を伴う箇所を明示し、成果物の何を確認すべきかも示してください。

資料について

- ・ 日本語自動字幕を全文確認し、宣伝・挨拶・冗長な繰り返しを省いた要約です。映像そのものを独自に評価した資料ではありません。
- ・ モデル名、ベンチマーク、機能、料金は動画時点の説明です。性能の優劣や現在の利用条件を外部資料で検証していません。
- ・ 本編では20ドルのプランをProと呼ぶ一方、挿入解説ではPlusへの訂正があります。この資料では未確認の料金表や課金推奨を再構成していません。
- ・ 商品タグ付けの件数は本人の報告であり、売上の増加を検証した数字ではありません。副業案と本人の感想は実績・保証から区別しています。
- ・ AIへの指示例は編集部の活用案です。動画内のすべての操作指示や画面上の全文を復元したものではありません。